

PFAS 訴訟物語

標題の本のタイトルは『毒の水』、英語版の原題は『Exposure』。この本に書かれているのは、25年前、WV州 Parkersburg の1人の農家(PFAS汚染被害者)の訴えを聞いて、巨大企業 DuPont に立ち向かい、最初の訴訟から約20年かかり、終に勝利を勝ち取った1人の弁護士の戦いの記録である。ことは1996年、“1農家の怒りの訴え”から始まった。訴訟を引き受け、汚染物質がテフロン製造工程で使われる界面活性剤のPFASであることを突き止め、その後、このPFASが、実は近隣の水道水にも混入していたことが判明し、集団訴訟へと発展する。当時、PFASは新規物質で、その毒性が証明されていなかったため、約7万人の疫学調査をおこなうこととなり、その結果を得るまでに、実に7年という長い年月を要した。この裁判の過程における DuPont とのやり取りが記されている。化学式を読めなかった弁護士が、専門家に教を請い、勉強しながら、PFAS汚染の専門家となり、集団訴訟をリードしていく。この疫学調査によってPFASは非分解性で、しかも体内に蓄積し、体内濃度が上がると痛を含む6種の疾病を引き起こすことが科学的に証明された。この結果によって、最終的に DuPont は6億7,000万ドルの和解金を支払うこととなった。現在では、他の地域のテフロン製造工場でも DuPont により、吸着濾過設備を設置する対策が採られている。実はこの内容は「Dark Waters」という映画となって公開されている。是非、一読、或いは映画鑑賞を薦めたい。尚、2023年6月、そもそもPFASを製造していた3Mは、120億ドル近い和解金を支払うことに合意したという。

(SCE・Net 教育グループ 紫垣由城)

化学工学誌 毎号のアンケートのお願い

化学工学誌編集委員会

化学工学誌編集委員会では、毎月の本誌に対するアンケートを化学工学会のホームページ(<http://www.scej.org/>)上で行なっております。

これは、幅広く読者の皆様のご意見をお聞きして、今後の企画・編集に役立てる目的で行なっているものです。

編集委員会としては、出来るだけ多くの方々のご意見をお聞きしたいと思っておりますので、毎月のアンケートの回答に是非ご協力をお願い申し上げます。

アンケートはその月の号の上旬から、化学工学会ホームページのトップページ画面下方のバナー「読者アンケート」より、回答できるようになっております。

(アンケート下欄の「ご自由に意見をお書きください」欄に会員番号、またはお名前と連絡先住所をご記入ください。個人情報はこの目的以外には使いません。)

この件についての問合せ：

〒112-0006 文京区小日向4-6-19 共立会館 5F
化学工学誌編集委員会 E-mail : kakoushi@scej.org